

特別展覧会関連企画

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史
北海道・東北編

× 山形文化遺産防災ネットワーク

講演会

初期写真から学ぶ「地域の歴史」と「災害」 そして「歴史継承」



撮影者不詳《飛鳥神社大内門崩壊之真図》明治27(1894)年 鶏卵紙 本間美術館蔵 ※明治27年庄内大地震震災写真より

日時：2013 8月25日(日) 13:30～17:30 (途中休憩あり) ※どなた様でもお気軽にお越しください。

会場：鶴岡アートフォーラム 2F 大会議室 申込み：不要 ※座席数に限りがございます。(50席程度)

北海道・東北編として開催する本展覧会では、明治期の天災記録写真を特別展示し、災害と向き合う人間の姿と写真史を見直しています。未だ記憶に新しい2年前の東日本大震災では、とくに東北地方の太平洋沿岸部が多大な被害を受けました。各地域の文化遺産も当然のことながら被災し、それらの救済活動は多くの方々によって今もなお続けられ、山形文化遺産防災ネットワークもその一端を担っています。この講演会では、今回の展覧会の関連事業として講師を招き、写真で遺る東北地方の災害の歴史と、被災した史料の救出活動、そして今後文化遺産を守っていくための防災について改めて検証します。

【講演名・講師】 ※内容が一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。

「東日本大震災で被災した写真を含む歴史資料の救済活動と災害前の歴史資料所在調査」 田中大輔氏 (山形文化遺産防災ネットワーク)

「平常時からのつながりを活かす～一関市大東町における文化財レスキューの取り組み」 小味浩之氏 (山形文化遺産防災ネットワーク)

「災害を受けた無形文化財を継承するための取り組み～黒森歌舞伎を例として～」 川島崇司氏 (庄内考古学研究会)

「山形の初期写真師たちと災害」 平井鉄寛氏 (鶴岡アートフォーラム)

「史料でみる庄内の地震～天保4年を中心に～」 今野章氏 (鶴岡市郷土資料館)

「災害を知らしめる写真・災害を受けた写真～写真を保存する意義とその方法について」 三井圭司氏 (東京都写真美術館)

主催：鶴岡アートフォーラム／鶴岡市教育委員会／山形文化遺産防災ネットワーク

共催：致道博物館／庄内考古学研究会／庄内民俗学会